

II 川平保護水面調査結果



調査担当者 村越正慶
杉山昭博
廣谷育子*

本年度はヒメジャコの生殖巣部重量、成長量、そして放流の各調査を行なった。種苗生産はヒメジャコを中心に行ない、ヒレジャコについても検討を加えた。また粒度組成及び底生生物、並びに水質等環境調査は例年と同様に行なった。

ジャコガイについての各調査、種苗生産試験及び水温、比重、天気率、風向、透明度等の水質環境調査の一部は村越、粒度組成と底生生物は村越と廣谷、そして栄養塩類の水質等環境調査は杉山がそれぞれとりまとめた。

本調査及び試験の実施にあたっては佐久本英珍、島尻広昭、呉屋秀夫の各氏（八重山支場職員）と非常勤職員の宇佐美智恵子嬢の多大なる協力を得たことを付記すると共に厚く感謝する。

1. ヒメジャコの生殖巣部重量調査

材料及び方法

材料及び方法は例年と同様である。すなわち材料は川平湾礁原部側の岸寄りの定点(図14, st. 2)周辺で採集した。貝は琉球石灰岩をドライバーとハンマーで割って取り出した。採集物は試験場に運び、軟体部(W)を取り出して重量を測り、その後生殖巣部(GW)のみを切り出して重量を測った。比較のための生殖巣部重量比率(GWR)は次式から求めた。

$$GWR = \frac{GW}{W - GW} \times 10^2$$

調査は定点からの採集であるために、採集個体を少なくすることに努めた。試料採取は過去の調査から明らかに生殖巣部重量の減少期と判明している時期には行なわず、増加を示す月から急減する月まで毎月1回とした。調査は月の中旬(大潮時を原則)に実施した。採集個体の大きさは殻長7cm以上の雌雄同体となった個体で、その数は5個体ずつとした。

結果

結果はGWRの各月の平均値(●)とその最高、最低値、採集時の調査場所の水温(○)、そして水試前定点での月平均水温(△)を図1に示した。今年度の調査は5月から9月まで実施した。

GWRの平均値は5月に殻長 8.13 ± 0.43 cm (7.67~8.73 cm)の貝で 39.4 ± 6.2 % (29.7~47.4%)を示し、6月には殻長 8.17 ± 0.48 cm (7.75~8.57 cm)の貝で 44.6 ± 5.6 % (33.9~49.7%)と上昇した。そして7月のGWRは殻長 8.03 ± 0.56 cm (7.22~8.91 cm)の試料で 43.7 ± 6.0 % (36.4~54.0%)と6月のそれとほとんど横ばいながら、値では微減少を示した。その後

* 非常勤職員